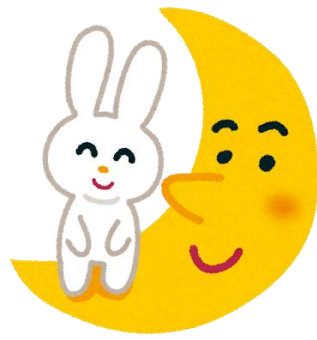




9がつ
保健だより



2026.8.1 南青山病後児保育室

こどものけいれん

けいれんとは

脳の神経細胞が一時的に過剰に興奮することによりからだが一瞬に震えたり硬直したりする症状を指します。

全身または一部の筋肉が勝手に収縮し 意識の低下・チアノーゼなどの症状がみられます。

こどもは脳がまだ未成熟であるため 熱や外部刺激などの影響を受けやすくけいれんを起こすことが比較的多くあります。

代表的な症状

- * 手足ががくがくと震える（間代性けいれん）
- * 全身がピーンと硬直して突っ張る（強直性けいれん）
- * 目が上を向いたり、一点をみつめて動かなくなる
- * 名前を呼んでも反応しない 意識がぼんやりする
- * 顔色が悪くなったり 唇が紫色になる（チアノーゼ）

発作の様子はこどもによって異なり 数秒から数分程度で自然におさまる事が多いです。

5分以上続く場合や繰り返し起こる場合は特に注意が必要です。

こどものけいれんの代表的な疾患

熱性けいれん

生後6か月くらいから6歳くらいまでのこどもに多く見られる症状です。急激に体温が上昇した際に発症し多くの場合数分で収まります。成長と共に 自然に改善するケースがほとんどです。

無熱性けいれん

発熱を伴わずに突然けいれんを起こす症状です。

原因はてんかん・脳腫瘍・脳炎・脳出血などの器質的疾患の他 血糖値の異常や電解質異常などの代謝異常が考えられます。

原因の特定には医療機関での詳しい検査が必要です。

てんかんの特徴と原因

てんかんは 脳内の神経細胞が過剰に活動することで繰り返し起こるけいれん発作を特徴とする慢性的な疾患です。

原因は脳の損傷 感染症 先天的な脳の異常 遺伝的要素などがあり 脳波検査や MRI 検査を通じて診断されます。

